

令和5年度日本小児外科学会
第6回定例理事会議事録

日 時：令和6年1月16日（火）11：00～14：00

会 場：大阪大学東京オフィス

出席者：小野 滋（理事長）、家入里志（副理事長）、尾花和子、田中秀明、平林 健、
 淵本康史、米田光宏（以上理事）、奥山宏臣（以上監事）、田中奈々（庶務副委員
 長）、柴田晶子（以上事務局）

出席者（WEB）：

田尻達郎（理事・会長）、浮山越史（理事・次期会長）、加治 建、石橋広樹、内
 田広夫、（以上理事）、越永従道（以上監事）、照井慶太（庶務委員長）、松浦俊治
 （庶務委員）、上原 秀一郎（財務会計委員長）、山田洋平（財務会計副委員長）、
 岡島英明（専門医認定委員会委員長）、木下義晶（施設認定委員会委員長）、古村
 眞（専門制度庶務委員会委員長）、白井規朗（第39回秋季シンポジウム会長）、田
 中 潔（第40回秋季シンポジウム会長）、大植孝治（第41回秋季シンポジウム会
 長）

議事案件：

議 事：

1. 第6回定例理事会の議事録署名人は、内田広夫理事・平林 健理事とした。
2. 令和5年度第5回定例理事会議事録につき、全会一致にて承認された。
3. 審議事項

1) 第61回学術集会について（田尻会長）

田尻会長より、現在の進捗状況の報告があり、承認された。

学術集会開催前日の5月28日に開催される理事会で2024年度の理事会開催スケジュールを決定することが確認された。

名誉・特別会員には大会側から開催案内・招待状を送ることが報告された。

P A P S J A P A N世話人は淵本理事が設定することとなった。

会 期：2024年5月29日(水)～5月31日(金)

会 場：ヒルトン福岡シーホーク 〒810-8650 福岡県福岡市中央区地行浜 2-2-3

テーマ：真のQOL向上を目指して

2) 第62回学術集会について（浮山次期会長）

浮山次期会長より、資料に基づき進捗状況が報告され、承認された。

日本小児救急医学会・日本小児泌尿器科学会など、他学会とのジョイントセッションを継続して開催することについて議論がなされ、理事会で継続審議とする他、総合調整委員会でも議論することとなった。

会期：2025年6月5日(木)～6月7日(土)

会場：一橋大学一橋講堂 〒101-8439 千代田区一ツ橋 2-1-2

テーマ：眞・善・美～きみの想いを子どもたちのために～

開催形式：現地開催＋ライブ配信

3) 第39回秋季シンポジウムについて（臼井前秋季シンポジウム会長）

臼井前秋季シンポジウム会長より資料に基づき開催結果が報告され、承認された。

日時：2023年10月28日（土）

会場：九州大学百年講堂

テーマ：小児外科領域における感染症対策

4) 第40回秋季シンポジウムについて（田中潔秋季シンポジウム会長）

田中秋季シンポジウム会長より資料に基づき進捗状況が報告され、承認された。

ワーク・ライフ・バランス検討委員会企画講演会を開催する方向で進めていることが報告された。

演題募集期間確定後に各機関宛にポスターを送る予定であることが報告された。

内田教育委員会担当理事より、P S J Mの内視鏡セミナーについて、教育委員会が担当するので、時間や会場については教育委員会から田中秋季シンポジウム会長連絡することが報告された。また、共催となるジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社には教育委員会から連絡することが報告された。

日時：令和6年10月26日（土）

会場：一橋講堂

テーマ：少子化時代における小児外科医育成

開催形式：現地開催＋ライブ配信（予定）

5) 第41回秋季シンポジウムについて（大植次期秋季シンポジウム会長）

大植次期秋季シンポジウム会長より、口頭で進捗状況が報告された。

日時：令和7年11月1日（土）

会場：千里ライフサイエンスセンター

テーマ：新生児外科疾患の長期フォローにおける問題点

6) 第 42 回秋季シンポジウムについて (溯本次々期秋季シンポジウム会長)

溯本次々期秋季シンポジウム会長より、今回特に報告事項が無い旨が述べられた。

7) 各種委員会報告および審議事項

(1) 庶務委員会 (照井委員長)

照井委員長より、資料に基づき報告がなされた。

2023 年 12 月末現在の会員数は、評議員を除く正会員 1,676 名 (うち海外 2 名)、評議員 284 名、準会員 28 名、名誉会員 54 名 (うち海外 8 名)、特別会員 66 名 (うち海外 1 名)、賛助会員 1 団体の合計 2,108 名 + 1 団体である。

外部委員の先生について、司法書士に相談したところ、

○顧問：委員会の外から、委員会に対して助言をする存在。決定には関与しない。

対外的な呼称としては「委員会顧問」(学会組織全体の「顧問」と区別)顧問については、委員のように直接決定に関与するわけではないので、内部、外部を区別する実益はないと思われま。

○外部委員：非会員の委員で、他の委員と同様に委員会の意思決定に参画する。

○学会組織 (理事会など) 全体の顧問であれば定款第 3 章で定めることになる。

○各委員会の顧問ということであれば定款第 5 章 36 条 (委員会) の規定を受けて定款施行細則第 26 条に (職務、任期、選任方法など) を定めるべき。

○顧問が外部の方の場合や外部委員は報酬発生之余地があるので無報酬と明記しない方がよい。

との指摘があったことが報告された。

これを受けて、「外部」とについても委員であれば決定権を有するため、外部委員という名称をなくすことが報告された。従来 of 委員会内の顧問には議決権がなかったので、外部

委員としていた非会員の有識者及び委員会内の顧問を全て「顧問」とすること、非会員の有識者である顧問は学会全体の顧問ではなく各委員会の顧問とすること、任期は1年だが自動更新とすることが報告された。顧問のCOIについてどうするか確認がなされ、議決権がないので、COIの提出は求めないこととなった。次回、または次々回理事会で決定できるようにすることが報告された。

(2) 財務会計委員会（上原委員長）

上原委員長より、資料に基づき報告され、承認された。

「学術集会および秋季シンポジウムの開催援助金に関する内規（案）」が示され、承認された。

「学術集会における名誉・特別会員、役員の接遇（宿泊費）に関する内規（案）」が示され、一部文言に修正を加え、承認された。

2023年12月19日に学会支援機構で中間決算書の確認を行ったと報告され、例年通りの執行状況で健全な財政状況であることが報告された。

2023年10月のインボイス制度開始に伴う旅費交通費や立替払い等の変更点について事務局から日本外科学会事務局に問い合わせ、確認することになった。

奥山前会長より、第60回学術集会の収支が報告された。（3月に開催される第7回理事会でも報告する）

ライブ配信費用の切り分けができなかったことが報告された。

今後はライブ配信やハイブリッド開催で費用がかかるため、補助金の全額返金は難しくなるとの見解が示され、理事会から理解が示された。

(3) 専門医制度委員会（専門医制度各委員長）

木下施設認定委員会委員長、岡島専門医認定委員会委員長、古村専門医制度庶務委員会委員長より資料に基づき、以下の点について報告され、承認された。

木下施設認定委員会委員長より、資料に基づき、新専門医制度サブスペ領域について報告された。

岡島専門医認定委員会委員長より、資料に基づき、専門医認定委員会について報告された。

木下施設認定委員会委員長より、2016年の熊本地震のときのように能登地震被災者に

対して、審査その他を考慮した対応をする予定があるか確認があり、小野理事長より、必要に応じて時期を見て対応するとの回答がなされた。また、熊本地震の際の委員長だった米田理事より、当時の対応について調査はしなかったが凍結という扱いにしたことが報告された。

(4) 機関誌委員会（田中秀明担当理事）

田中担当理事より、資料に基づき報告された。

2023年（第59巻）優秀論文の選考について報告された。

投稿論文の査読状況について報告された。

オンライン投稿・査読システム導入について、委員会で継続審議中であり、費用面・運営面での提案資料を作成中であることが報告された。

(5) 国際・広報委員会（淵本担当理事）

淵本担当理事より、資料に基づきHPの改定状況が報告された。

英語HPの理事長挨拶の文章は現在の日本語HPの小野理事長の挨拶を英訳し、理事長にチェックしていただくこととなった。

PSIをオフィシャルジャーナルとしてジャーナルページに掲載することが確認された。

英語HP作成には約70万円を要すること、正式依頼してからデモ画面が作成されることが報告された。英語ページ作成の見積りに記載されている各項目を確認することとなった。

(6) 保険診療委員会（尾花担当理事）

尾花担当理事より、資料に基づき報告された。

第2回保険診療委員会について報告された。

理事会審議において、シロリムス投与に係るTDMの保険適用についての申請を医薬品・医療機器検討委員会より厚労省に提出予定であることが報告され、今回申請が通らなかった場合には、令和8年度の要望項目に入る可能性があることについて共有した。

日本外科学会保険診療委員会より、供給停止予定品目調査について調査依頼があり、メール審議にて当学会として問題のないことを確認し、報告した。

(7) 教育委員会（内田担当理事）

内田担当理事より資料に基づき報告され、承認された。

令和 6 (2024) 年 6 月 30 日 web 開催の第 39 回卒後教育セミナーのプログラムが決定し、会告第 2 号が次号の学会誌に掲載されることが報告された。

卒後教育セミナーの講義ビデオはテキストや配布スライドと併せてサーバーにアップし、教育委員会で URL を引き継いでいく予定であることが報告された。

第 39 回卒後教育セミナーと同日 (令和 6 (2024) 年 6 月 30 日) web で開催を予定している第 16 回小児内視鏡外科手術セミナーについて、プログラムが決定し、次号の学会誌に会告第 1 号が掲載される予定であることが報告された。

令和 6 (2024) 年 8 月 10 日 (土) 名古屋大学において開催予定の小児外科サマースクールについてポスターが提示され、募集期間や参加者決定方法、セミナーの内容等について報告された。

小児外科学会ホームページの施設リストをわかりやすく改訂することが提案され、議論がなされた。内田担当理事より、施設リストをクリックすると日本地図が出てそれぞれの県をクリックするとその件にある施設リストが出、その施設名をクリックすると施設の情報がわかる、という案が示され、また、施設情報をアンケートで収集することを検討中であること、リクルートのために施設情報を収集しやすくすることを目的としたものなので、施設側がまめに回答してもらわなくても良いこと、などの説明がなされた。これに対し、人の入れ替わりがあるので、いつの時点の回答がわかるようにした方が良い、日本地図を使った HP を作成した場合の金額を確認した方が良い等の意見が寄せられた。アンケートの最終案を学術・先進医療検討委員会で審議した上で、認定施設を対象に施設情報収集のためのアンケートを依頼することが承認された。

令和 5 年 10 月 27 日 (金) に開催された第 15 回小児内視鏡外科手術セミナーについて、資料に基づき報告された。

日本外科学会プラットフォームを利用した E-learning 立ち上げの準備状況について報告された。

(8) 悪性腫瘍委員会 (平林担当理事)

平林担当理事より、資料に基づき報告された。

2023 年 11 月 16 日に開催された第 1 回悪性腫瘍委員会について報告された。

腫瘍登録については 2022 年度で終了しており、今後の活動方針は、過去の膨大なデータの整理を行い、データベース化することになったことが報告された。

各地区の担当先生と連絡を取り、紙のデータやフロッピーのデータも含めた以前のデータについて確認をする予定であることが報告された。

今後、小児血液がん学会の登録データへの継続性も考える必要性も発生することが報告された。

平林担当理事の手元にある過去のデータについては、紙データに関してはスキャンして PDF 化し、フロッピーディスクや MO ディスクに保存されたデータは、フロッピーディスクドライブと MO ディスクドライブを購入した上でファイルを整理する予定であることが報告された。

(9) 学術・先進医療検討委員会（米田担当理事）

米田担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

2023 年 11 月 7 日、AMED 再生医療実用化事業「先天性食道閉鎖症および先天性食道狭窄症の術後吻合部狭窄への自己上皮細胞シートによる小児再生治療の研究」に付随した学術アンケート調査「先天性食道閉鎖症/先天性食道狭窄症の術後難治性吻合部狭窄の患者数調査」について審議し、調査研究の重要性、会員にとっての有益性、研究方法の科学的妥当性、倫理的配慮、過度な負担にならないか、その他委員から寄せられた意見について議論されたことが報告された。委員からの意見については申請者の淵本康史先生に質問し、回答を得たこと、回答を含めて学術・先進医療検討委員会として承認したことが報告され、承認された。

「胆道閉鎖症について指定難病の診断基準・重症度分類のアップデート」を厚労省より依頼され、アップデートした個票の審査を胆道閉鎖症研究会の大久保龍二先生からの依頼により、学術・先進医療検討委員会で審議した結果、承認されたことが報告され、承認された。

「原発性リンパ浮腫と青色ゴムまり様母斑症候群の難病申請における個票」の審査について、緊急審議の上、理事会の令和 5 年度第 7 回メール審議で承認されたことが報告された。

(10) 倫理・医療安全管理委員会（石橋担当理事）

石橋担当理事より、第 61 回学術集会の講習会の講師は徳島大学の池本 哲也先生にお願いすることが報告された。

(11) データベース委員会（田中秀明担当理事）

田中担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

2023 年 9 月 26 日の第 3 回理事会で審議した、2021 年度に承認された NCD 研究（外科複数領域「成人手術の Learning curve から推定される小児外科医の症例経験数の充足割合の検討」）の修正申請に関する審議の結果を申請者に報告したところ、報告書の受領及び研究チーム内で検討し回答するとの連絡があったが、その後新たな連絡は届いていないことが報告された。

2023 年 9 月 9 日、初の前向き研究の申請となる「先天性胆道拡張症におけるロボット支援手術の有用性及び安全性評価」の研究計画書が学会事務局に提出された。データベース委員会内で事前審査を行い、多数の指摘事項が収集されたが 10 月 24 日に総括した。10 月 29 日に申請者に回答し、同日「検討して修正する」旨の回答を得たことが報告された。

2023 年 9 月 19 日に募集を開始した「NCD データを利用した複数領域にまたがる新規研究課題の公募」に対して応募のあった「小児、AYA 世代肝細胞癌の診療状況調査」（広島大学檜山英三先生）は、10 月 25 日の理事会にて承認を得た後に、若干の修正を加えて 11 月 10 日（金）に日本外科学会に提出、受理されたことが報告された。

2023 年 12 月 22 日に 2021 年に採択された「本邦における新生児消化管穿孔後の腸瘻閉鎖に関する臨床調査解析」の申請者の渡邊峻先生より

○研究資金獲得に難渋し研究開始が遅れ 2023 年度以内の研究終了が不可能となったため、研究期間の延長

○死亡例と検索過程での脱落例により予定していた多変量解析に十分な症例数が確保出来ないため、登録症例の検索期間の拡大

○ミーティングにより決定した現段階での解析項目の加筆・修正

について修正申請があり、DB 委員会で審議した結果承認されたことが報告され、承認さ

れた。

(12) 小児救急検討委員会（平林担当理事）

平林担当理事より、資料に基づき報告された。

2023年度の門田班研究のアンケート調査の進捗状況について報告された。

隔年だった小児救急検討委員会のアンケートを毎年行うことが確認され、アンケートの項目が増えなければ学術・先進医療検討委員会で審議しなくても良いことが承認された。日本小児外科学会ホームページに掲載されている認定施設のページをもう少し見やすい位置にしてもらいたいとの希望が述べられ、瀧本国際・広報担当理事より、掲載希望位置をいくつかあげていただきたいとの回答がなされた。

令和6年能登半島地震における小児外科学会災害対策本部の動きについて報告された。米倉竹夫先生から小児外科学会の会員の中でDMAT活動をしている方を対象としたアンケートを依頼されたことが報告され、委員会で検討することとなった。

(13) トランジション検討委員会（加治担当理事）

加治担当理事より、資料に基づき「日本小児外科学会会員における「外科疾患を有する児の成人期移行についてのガイドブック第2版、移行期支援のための患者サマリー（2022年版）使用の実態調査(一次アンケート調査)」のアンケートを作成したことが報告された。

認定施設・教育関連施設を対象にアンケート回答を依頼することが承認された。

(14) ワーク・ライフ・バランス検討委員会（尾花担当理事）

尾花担当理事より、資料に基づき2023年12月26日に開催されたワーク・ライフ・バランス検討委員会について報告された。

小児外科医の求人広告の掲載について、リンクを作って募集要項を掲載することが承認されたことを受けて、掲載内容（①施設側からの一方向か、求人を求めている側も掲載するのか ②掲載期間 など）を決定して広報委員会と打ち合わせを行うことが報告された。

理事会にて、小児外科特有の働き方改革を行っていく上で、学会として各施設の現状を

把握することを目的としたアンケート調査を行っていくこととなった事を受け、具体的な項目についてワーク・ライフ・バランス検討委員会で検討し、学術集会の特別企画の際に委員会報告とともに提示するように提案があったことから、アンケート調査をどのように進めていくか検討していることが報告された。

第 61 回日本小児外科学会学術集会における特別企画について検討していくことが報告された。

2024 年 PSJM での委員会企画は開催する予定であることが報告された。

委員会内の役割分担について報告された。

ハラスメント防止宣言がホームページに掲載されたことが報告された。

第 60 回小児外科学会学術集会時の委員会企画の収支が確認された。

(15) 規約委員会（石橋担当理事）

石橋担当理事より、今回特に審議事項がない旨が述べられた。

(16) 研究倫理委員会（石橋担当理事）

石橋担当理事より、今回特に審議事項がない旨が述べられた。

(17) NCD 連絡委員会（湊本担当理事）

湊本担当理事より、口頭で Audit、門田班の受託研究「COVID-19 による小児外科診療への影響」について報告された。

(18) ガイドライン委員会（加治担当理事）

加治担当理事より、資料に基づき報告された。

2023 年 11 月 6 日付で日本小児感染症学会から「本邦における肺低形成、気道狭窄、先天性食道閉鎖症、先天代謝異常症および神経筋疾患に対するパリビズマブ使用の手引き」について、ガイドライン委員会の審査結果が報告され、承認された。

腸回転異常症診療ガイドライン公開後アンケート調査の進捗が報告され、第 61 回日本小児外科学会学術集会での学会発表、学会誌での論文発表を予定であることが報告された。

発表前にアンケート結果を理事会に提出することとなった。

ガイドライン委員会が事務局を担当している小児胃軸捻転症診療ガイドラインについて、メジカルビュー社の発刊条件が提示され、冊子体での発行が必要か否か等も含めて議論した結果、冊子では発刊せず WEB 公開とし、委員会報告のような簡易版を小児外科学会誌に掲載する方向で検討することとなった。

先天性食道閉鎖症診療ガイドラインについて、文献検索費として委員会活動費から 10 万円程支出することが承認された。

(19) 利益相反委員会（米田担当理事）

米田担当理事より、2 月半ばに COI を役員・委員に送付することが報告された。

(20) 医薬品・医療機器検討委員会（内田担当理事）

内田担当理事より、資料に基づき報告された。

イントラリポス及びミキシッドの添付文書の禁忌の項の改訂に係るご意見伺いについて、独立行政法人医薬品医療機器総合機構 医薬品安全対策第一部 および 日本小児科学会より小児外科学会としての意見を求められたことを受けて、小児外科学会として、禁忌となった場合、静脈栄養に依存した患者が食物アレルギーを有すると、代替薬がないので必須脂肪酸の補給ができないことになるため、禁忌ではなく‘慎重投与’とすることを求めた。その結果、「本剤の成分に対し過敏症の既往のある患者」と記載される予定だったが（この記載は解釈によってはかなり投薬制限を受ける可能性あり）、当学会の意見に耳を傾けて頂き、現在検討中であることが報告された。

小児外科では非イオン性ヨード系造影剤を診断、治療で用いることがあるが保険適応外である。欧米で小児消化管造影の承認が得られている ‘オムニパーク’ と ‘ビジパーク’ の 2 剤を「55 年通知」に則った適応外使用事例の申請をした（日本医学会）。当初は小児科学会・小児放射線学会との連携を図る予定であったが、小児外科学会は日本医学会の分科会であることから単独での申請が可能となったことが報告された。

厚労省に「難治性脈管腫瘍・脈管奇形患者に対するラパリムス錠及び同顆粒（シロリムス）投与に係る TDM の保険適応（特定薬剤治療管理料の算定対象疾患追加）の要望書」

を提出したことが報告された。

(21) ロボット支援手術検討委員会（家入副理事長）

家入副理事長より、今回特に報告事項が無い旨が述べられた。

(22) 総合調整委員会（家入委員長）

家入委員長より、資料に基づき以下の点について検討を行ったと報告された。

- ・ 日本小児泌尿器科学会との連携について
- ・ 働き方改革に対する学会の取り組み
- ・ 小児外科フォローアップ WG（仮）について
- ・ こども家庭庁への学会からの要望について
- ・ 新専門医制度への対応について
- ・ U45WG の今後の活動方針について
- ・ 学術集会のあり方について
- ・ NCD Audit 委員会について（アドホック委員会の是非）
- ・ 小児外科専門医の適正配置について（地域ブロック制についての検討）
- ・ 小児外科関連研究会の今後のあり方
- ・ 英語 HP について
- ・ 海外での研修システム、海外からの研修の受け入れについて
- ・ 胆道閉鎖症研究会からの承認依頼について

(23) 日本外科学会理事会（田尻前々理事長）

田尻会長より、今回特に大きな進捗はないことが報告された。

奥山監事より代議員選挙で定員を 350 から 400 とし、その内女性枠を 50 増やした結果、女性比率が増えたことが報告された。

(24) 四者協関連（小野理事長）

小野理事長より、能登半島地震への対応を中心にあたっていることが報告された。

7) スミスメディカル・ジャパン「単回使用ビボナ気管切開チューブ」

安定供給可能連絡（小野理事長）

小野理事長より、スミスメディカル・ジャパンから「単回使用ビボナ気管切開チューブ」安定供給可能との連絡があったことが報告された。

8) 日本医学会連合 専門医等人材育成に関する要望書について（小野理事長）

小野理事長より、12月21日に専門医等人材育成に関する要望書が医学会連合から厚生労働大臣、文部科学大臣、総務副大臣、内閣府特命大臣に提出されたことが報告された。

9) 【日本医学会連合 門田班_臨床外科グループ】12月28日臨床外科G会議（小野理事長）

小野理事長より、12月28日に開催された日本医学会連合 門田班_臨床外科グループ臨床外科G会議について報告された。

10) 難治性脈管腫瘍・脈管奇形患者に対するラパリムス錠及び同顆粒（シロリムス）投与に係る TDM の保険適用（特定薬剤治療管理料の算定対象疾患追加）の要望書（小野理事長）

小野理事長より、12月28日付で難治性脈管腫瘍・脈管奇形患者に対するラパリムス錠及び同顆粒（シロリムス）投与に係る TDM の保険適用（特定薬剤治療管理料の算定対象疾患追加）の要望書を厚生労働省保険局医療課長宛に発送したことが報告された。

11) NCD 理事会・社員総会（12/25 開催）の議事録（案）（小野理事長）

小野理事長より、12月25日に開催されたNCD理事会・社員総会について報告された。

12) 東京医学社「小児外科」における無断転載事案について（小野理事長）

小野理事長より、前回の理事会で黒田達夫神奈川県立こども医療センター総長から報告された東京医学社「小児外科」における無断転載事案の進捗状況について報告された。

1. 報告事項

1) 理事長報告 (小野理事長)

- (1) 日本胸部外科学会からの通信文「理事長退任・就任の挨拶」を受領した。
- (2) 日本医学会連合からの通信文「会長就任のお知らせ」を受領した。
- (3) 日本大腸肛門学会からの通信文「理事長退任・就任の挨拶」を受領した。
- (4) 厚生労働省からの寄贈本「医薬品・医療機器等安全性情報 No.405」を受領した。
- (5) 難病医学研究財団からの寄贈本「難病研究財団ニュース No.59」を受領した。
- (6) 難病のこども支援全国ネットワークからの寄贈本「がんばれ! Vol.201」を受領した。
- (7) 外保連からの寄贈本「外保連試案 2024」を受領した。
- (8) 日本の医療の未来を考える会からの寄贈本「集中 12月号」を受領した。
- (9) 厚生労働省からの寄贈本「医薬品・医療機器等安全性情報 No.406」を受領した。
- (10) 難病のこども支援全国ネットワークからの寄贈本「がんばれ! Vol.202」を受領した。
- (11) 日本の医療の未来を考える会からの寄贈本「集中 1月号」を受領した。
- (12) 日本医療機能評価機構からの寄贈本「NEWS LETTER 1月号」を受領した。

2) 次回定例理事会日程の確認 (小野理事長)

次回定例理事会は令和6年3月21日(木)11:00~16:00 大阪大学東京オフィスにて開催することが確認された。

理事長

理事

理事